



小学生バドミントン通信

NO.30 2025.12

発行：日本小学生バドミントン連盟 会長 黒川 茂

若葉カップ男子優勝 岡垣ジュニア

創部50周年記念の優勝、ありがとう。

岡垣ジュニア 監督 池田 明 男

岡垣ジュニアは日本一のクラブです。70人以上の優秀なクラブ員（年中から中3まで）がいます。（数は力なり）クラブの運営は見守り会（父兄の会）が全面的に協力する体制。多くのクラブ員を育てる20名以上の情熱のあるコーチ陣。（バドミントン経験者の父兄が協力してコーチをして育てています。）毎日練習できる素晴らしい環境があります。（田舎だからできる。）創部して50年の歴史があり、先輩たちはオリンピックなどで大活躍をしています。クラブ員・父兄・コーチ・が毎日必死になって選手たちのために協力していただいています。

若葉カップには第5回大会から毎年男女チームで参加させていただいています。若葉で色々なことを教わり、岡垣ジュニアが日本一のクラブになりました。昨年はブロックの中に男子はRKR（優勝チーム）女子ははりーあつぷ（優勝チーム）壮絶な試合をしましたが、ブロックで男女が負けてトーナメントに上がれませんでした。試合後の反省会で試合で負けたのは悔しいが、試合内容は素晴らしかったので来年は男女同時優勝目指して頑張ろう・・・話したことを覚えています。

今年は男子チームはナショナル3人を擁して、層の厚いチームが出来ましたので優勝を期待していましたが、順調に勝ち抜き準決・決勝は苦戦しましたが4回目の優勝

が出来て最高でした。

女子はエース不在で全員の総合力で勝ち抜くチームでしたが、ブロックに強敵のワイズワン（優勝チーム）が入っていて敗れてしまいました。

今年も長年の目標である男女同時優勝が達成できませんでした。（残念無念・・・）

若葉カップに39年間、毎年参加していますのでチームの監督さん・大会の役員・ボランティアの方々と友達になって、暑すぎる夏の若葉カップで会える喜びを満喫しました。

最後に素晴らしい若葉カップ全国小学生大会を開催にご尽力されました関係者の皆様にお礼を申し上げます。

バドミントンの甲子園が益々盛大になり、継続されることを願います。

（永遠の夢追い人より）





若葉カップ女子優勝 ワイズワンジュニア

初出場・初優勝達成 “チャンスをものにした自慢の選手達”

ワイズワンジュニア 監督 久保田 雄 三

ワイズワンジュニアは、東京都の東エリア（江東区～江戸川区）を拠点に活動しているバドミントンチームです。前身は2020年に発足した「ハナマウジュニア」であり、同時期に女子実業団チームも立ち上げ、競技発展を目指しました。しかし、コロナ禍の影響で大会が次々と中止となり、練習すら思うようにできない状況が続きました。その結果、実業団チームはわずか2年で解散を余儀なくされ、残ったジュニアメンバー数名で活動を続けていました。転機となったのは2023年。チーム名を「ワイズワンジュニア」と改め、再スタートを切りました。この数年間で仲間は少しずつ増え、現在は女子16名・男子14名、計30名の活気あるチームへと成長しています。

今大会を振り返ると、東京都予選から本戦に至るまで、まさに紙一重の接戦の連続でした。その中で大きな勝因となったのが、コーチ陣による徹底した分析と的確なオーダーです。相手チームの強みと弱みを見極め、最後まで緻密に練られた布陣は完璧でした。

また、選手たち自身の成長も目覚ましく、特にダブルス陣の成長は素晴らしいものでした。

シングルスでは各学年に全国レベルの実力を持つ選手がいましたが、ダブルスに関しては全国との差

を痛感していました。そこでチーム内でのレギュラー争いを活性化させ、ペアリングも何度も試行錯誤を繰り返しました。選手には常に「チャンスをものにしよう！」と声をかけ続け、「このメンバー、この力があれば全国の頂点を狙える。あとは自分たち次第だ」と日々鼓舞しました。その結果、勝負所で見せたダブルス陣の活躍は、まさに感動的で、チームスポーツの歓喜を分かち合えた瞬間でした。

さらに、今回の優勝を語るうえで欠かせないのが保護者の存在です。時に外野からうるさいときもありますが…（笑）大会に向けた練習会では率先して役割を担い、運営面でも協力し大きく貢献してくださいました。今大会の宿舍手配やスケジュール管理といった初めての団体行動も、選手を第一に考え一丸となって進めていただきました。これは今後の伝統を築く大きな第一歩であり、選手・コーチ・保護者が三位一体となった姿は、初出場初優勝という快挙を生んだ最大の要因だと確信しています。この優勝を通して、選手一人ひとりが努力や積み重ねの尊さ、仲間を信じ支え合うことの大切さを実感できたと思います。支えてくださった方々への感謝を胸に、全国優勝を大きな励みとして、更なる飛躍を目指し、強い決意を持って前進し続けていきたいです。

最後になりますが、大会運営に尽力して下さった小学生バドミントン連盟ならびに長岡京市関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。私たちワイズワンジュニアは、女子「二連覇」、男子は「忘れ物を取りに！」という大きな目標を達成すべく、再び挑戦します。これからもジュニア世代からバドミントン界を盛り上げていけるよう、チーム一丸となって歩んでまいります。





2025年度の大会記録



第41回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟・長岡京市)

令和7年7月31日～8月3日／京都府長岡京市・西山公園体育館 ほか

【男子の部】

優勝	岡垣ジュニア	(福岡県)・・・4回目
2位	はりーあっぷ	(愛知県)
3位	流山ジュニア	(千葉県)
	ワイズワン	(東京都)

【女子の部】

優勝	ワイズワン	(東京都)・・・初優勝
2位	N P 神奈川	(神奈川県)
3位	STAYGOLD	(岐阜県)
	鶴ヶ島	(埼玉県)

第26回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

(主催：日本協会・日本小学生連盟)

令和7年8月15日～17日／青森県青森市 マエダアリーナ ほか

【男子Aグループ(5・6年生)】

優勝	下永田晟旺	(鹿児島県)
2位	谷川 結音	(富山県)
3位	長谷川純斗	(茨城県)
	高橋 慎吾	(東京都)

【女子Aグループ(5・6年生)】

優勝	藤城 百蘭	(東京都)
2位	古賀 海奈	(神奈川県)
3位	渡邊世怜菜	(愛知県)
	好村 唯	(山口県)

【男子Bグループ(3・4年生)】

優勝	栗原 瑛虎	(東京都)
2位	杉本 達哉	(岐阜県)
3位	佐藤 絆俐	(神奈川県)
	市川晃二郎	(愛知県)

【女子Bグループ(3・4年生)】

優勝	光武 佑香	(鹿児島県)
2位	松本 玲奈	(神奈川県)
3位	真鍋 葵	(愛媛県)
	小倉 葵依	(福岡県)

【男子Cグループ(1・2年生)】

優勝	竹内 碧斗	(東京都)
2位	島崎 眺輔	(神奈川県)
3位	國方 海晴	(香川県)
	廣瀬 叶大	(滋賀県)

【女子Cグループ(1・2年生)】

優勝	清水 玲空	(北海道)
2位	黒川 紗矢	(静岡県)
3位	野城 美羽	(富山県)
	河島 光叶	(埼玉県)



開発も待つ

コロナウィルス感染など耳にすることも少なくなり、皆んなが屋内外でスポーツに取り組む様子が増えました。

バドミントンも各地で大会が開かれ、興味を持って入部してくれる子供らが増えてきました。

その反面さまざまな商品が注文しても欠品中や原材料の高騰により値上がりが進んでいます。

バドミントン用品も例外ではありません、特にシャトルの値上がりクラブ運営には死活問題です。新たな品質の商品も開発されているようですが、これらの季節、多方面より情報を得て、少しでもコストの良いシャトルが見つければ良いですね

【日本小学生バドミントン連盟 広報部 吉浦 健二郎】



令和7年度日本小学生バドミントン連盟 強化部の事業報告

日本小学生バドミントン連盟強化部員 永 井 大 吉

1. 令和7年度 第13回U-13選抜強化合宿

令和7年8月3日～6日（京都府長岡京市・西山公園体育館）

役員5名、コネックス2名、大学生3名、選手54名

今年の合宿のテーマはフィジカルを意識するというテーマのもとスタートしました。日本代表の選手の多くが試合でのコメントで、「体力的にもフィジカル的にも厳しい試合でした」というように日本の選手はフィジカルが弱いのでそこを意識していきました。海外選手とのフィジカルの差は、令和7年3月に実施した「中国上海遠征」でも感じたところでした。

まず始めに、選手達に「フィジカルとは」という質問から入り理解をしてもらうことで、フィジカルに対する意識付けをするよう心がけました。そのあとにシャトル置きやダッシュ等でフィジカルトレーニングを行いました。インターバルでパターン練習をしたり、動く・休むを繰り返し、コートで試合をしたときの感覚で体を追い込むように練習が出来ました。

その他、大学生やYONEXの選手にスパリングをしてもらい、早くて長いラリーを継続することでとても良い練習ができたと思います。

ABC大会前ですが、怪我もなく体を追い込むことができたのでやってきたことを本番で活かしてほしいと思います。

2. 令和7年度 第24回選抜強化合宿

令和7年8月17日～20日（青森県黒石市・スポカルイン黒石）

役員8名、コネックス2名、高校生、選手49名

最初に専修大学渡辺先生に、体力測定を実施していただきました。現日本代表選手がジュニアだった頃の体力の測定値と自分たちの数値を比較し、良いところ、補わないといけないところを再確認してもらいました。良いところは更に伸ばし、弱い所はトレーニング等で補っていくことをご指導していただきました。前回の合宿でフィジカルを意識した練習に取り組んだので、つながりのある内容になりました。

2日目は、奈良岡さんにご指導いただきました。浪岡高校生にスパリング形式でパターン練習をお願いしました。高校生が相手のため、スピード、タッチ、精度が高く、小学生は精神的にも、肉体的にも追い込むことができ、とても良い練習でした。

また、前年度は「ロブの精度」をテーマとして取り組んだ年でしたが、ロブの質が良くなっている選手が多く見受けられました。今年度はフィジカルを意識するというテーマで取り組みました。どちらもすぐに強くなったり、上手くなることはありません。引き続き強化部として課題を持ち、年間を通して継続していきたいと思います。



日本小学生バドミントン連盟 事務局

〒068-0013 北海道岩見沢市東町1条8丁目1363-24 池田忠広 気付
TEL・FAX：0126-20-0833 携帯：090-1528-8940
<https://www.syoubad.jp> E-mail：info@syoubad.jp